

しんぎょう

浄土真宗本願寺派（西本願寺） 真楽寺報

令和五年十一月

かなしきかなや道俗の

良時・吉日えらばしめ

天神・地祇をあがめつつ

卜占祭祀つとめとす

（親鸞聖人『悲歎述懐讃』）

誰が言い出したかもわからない日の良し悪しに惑わされ、人生の大事な局面で判断に迷ってしまうこと、あるいは、未来のことなど誰もわかりはしないのに、ひとたび予言がなされたらそれに振り回されてしまうことがあります。全てが縁によって起こっている、すなわち縁起の理を覚ればそんな迷走はしないのでしようが、凡夫の身にはそれは叶いません。過去から続くいのちの事情もわからないまま未来を憂うる私たちは、なにか力のありそうな人の言葉には弱いものです。

すような事柄は過去に限らず今も続いていることです。それをビジネスにしている偽りの宗教集団も存在します。安らぎを求めの人に恐怖を与える行為は悪魔の所業と言っても言いすぎではないでしょう。

親鸞聖人は、一切の生きとし生けるものを救うという阿弥陀如来の本願のはたらきを教えて下さいました。本願力に遇えば、凡夫の身に何ものにも妨げられることない生き方が顕れ出します。それを親鸞聖人は「念仏者は無礙の一道なり」（『歎異抄』）と仰いました。そこには凡夫が凡夫の姿のままに今を尊びながら生きる道が示されています。煩惱を断つことが出来ないものだからこそ、必ず救うと誓われた御本願でした。

一九三〇年イギリスの経済学者、ケインズは「孫世代の経済的可能性」という随筆の中に百年後の人々の暮らし方の予想を立てています。資本主義が発展していけば、平均労働時間は一日三時間、週十五時間で充分となり、ゆとりを持って働き、余暇を存分に楽しむことが出来る世の中になっているというのです。

経済学の話はよくわかりませんが、おそらく科学の発達によって生産技術が向上し、効率的な経済活動が出来るようになるという意味でしょうか。

しかし、ケインズの予言から百年近く経った今、どうでしょう。長時間労働に苦しむ人は依然多く、中には過労死に到るまで労働を強いられる人もあります。インターネットや携帯電話などの普及で、会社になくても仕事が出来ることから、家でも休すまらない人もいます。非正規雇用のまま不安定な収入でも働かざるを得ない人もいます。そして、ロボットやAIの進化によって人間が働く場が奪われてもいます。仕事を失ったら労働時間は零となり数字の上ではケインズの予言は当たったことになりませんが、それはゆとりでも余暇でもありません。

それだけではありません。たかだか五百年くらい前に始まった資本主義経済は、全てを商品化し、人の暮らしを売買、利潤追求のシステムの中で生きていく事を余儀無くし、その結果人間を欲望肯定の生き方に変え、自然を回復不可能なくらいに破壊し続けています。どうしてこんなことになったのでしょうか。ケインズは間違った。誤算だったという人もいますが、実はケインズの予言は条件付きでした。「人間が金銭愛とも表現され

る食欲さを離れ、不品行な収奪を繰り返す経済活動を軽蔑し、資本によって生きる力を奪われ続ける人への配慮や行動が出来れば」という話です。そんな美德、英知を身につければ人間はもつと豊かな生き方が出来るということだったのでしよう。裏返せば、それはどんなに科学が発達しても、また、どんなに時間をかけても、人間の欲や愚かな思考はそう易々とは変わらないと証明されてしまったということになります。

出入り口の小さな回転ドアに入り込んでしまったみたいに、経済のシステムの中でそこを抜け出すこともできず、ひたすら回り続けるような生き方を、孫たちの時代には無くしたい、ケインズはそんな希望を持ったのではと思うのは勝手な解釈でしょうか。

私たちは遙かな昔から老病死を初めとする無数の苦悩を抱え、地獄・餓鬼・畜生・修羅と様々な悪業を重ねて、その循環から抜け出すことが出来ない者です。この際無き流転輪廻の凡夫の姿を見通された阿弥陀如来の誓願を、疑いなくそのままに聞く人は真実のさとりへの歩みを始めています。世間の言葉に惑わされることなく、孫の世代どころか未来際、世のあらん限りの一切衆生を救う阿弥陀如来の本願力を聞くことをお勧めになる親鸞聖人です。

◎秋の法要のお知らせ

左記の通り『秋の法要』をお勤めします。

御講師は、昨年引き続き大阪・西法寺住職、行信教校講師の星野親行先生をお招きしています。お誘い合わせてご参詣下さい。

記

一、日時

十一月二十五日(土)

午前九時半～十一時半

聞信のつどい

午後二時～四時

納骨堂永代経法要

十一月二十六日(日)

午前八時四十五分

～九時十五分

初参式

午前九時半～十一時半

聞信のつどい

一、御講師

行信教校講師

星野親行師

(大阪府豊中市・西法寺住職)

☆『聞信のつどい』

真楽寺が大村に御教化の営みを始めましてから四十年、これまでに沢山の御門徒の皆様が、真楽寺にご縁を結んで下さいました。

様々なご事情、それぞれに異なる歴史をかかえる皆様、真楽寺のひとつの本堂に集われる姿は、本当に不可思議なご縁のはたらき

としか表現のしようがありません。

ここに共に会えた事はそれぞれのいのちに連なる無数の先達や、法友のおはたらきがあったことでしょう。その御恩を蒙つて、また、私たちも後の人々の法縁を紡ぐはたらきの中にあるのだと思います。

この仏法に遭遇し、み教えを聞き得たこと、そして、御報謝の営みを慶ぶ法要として『聞信のつどい』をお勤め致します。

ご家族、法友、お誘い合わせてご参詣、お聴聞下さい。

☆『納骨堂永代経法要』

納骨堂にご縁の方全ての仏徳を讃嘆供養する法要をお勤めします。納骨堂をご利用でない方も、どうぞ、ご一緒にお聴聞下さい。

☆『初参式』 はつまいり

赤ちゃんが生まれてきて最初のお参りです。

仏様のお慈悲に包まれて生きていく子供、そしてその親、あるいは祖父母としての新たな人生の出發を、如来様に奉告する式です。

受式のお子さんを募集しています。御希望の方は十一月十九日(日)までに真楽寺にご連絡下さい。

※秋の法要に向けて境内本堂のお掃除をします。ご都合つかれる方はご協力下さい。

十一月十八日(土) 九時から

◎富の原真楽寺(富の原一・四三・四)

親鸞聖人報恩講のお知らせ

左記の通り、富の原真楽寺においてお取り越し報恩講をお勤め致します。近隣の方はご参詣下さい。(駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用の上ご参詣下さい。)

記

期日 十一月二十六日(日)

午後二時より

御講師 星野親行師

◎年末の行事のお知らせ

☆年末大掃除・餅つき

十二月二十四日(日)

午前九時から

コロナウイルス感染症の影響で、お正月のお供えの餅つきを中止してしまいましたが今年の実施したいと思えます。ただ、餅つきの後の会食は致しません。

☆除夜会

十二月三十一日(日)

午後五時より一時間

◎令和六年一月の行事のお知らせ

☆元日会

令和六年一月一日(月)

午前十時より一時間

☆仏具おみがき

期日 一月七日(日)

午前九時から十一時まで

☆親鸞聖人御正忌報恩講

期日 一月十三日(土)から

十六日(火)まで

時間 午前九時半より

尚、十五日は午後七時よりの大速夜のお勤めもあります。

毎月の行事案内(二月、八月を除く)

◆月例法座

毎月第一日曜日

午前九時半より

◆家族礼拝

毎月第二日曜日

午前九時より

◆親鸞聖人御命日法要

毎月十六日

午前九時半

◆門徒会(御法義歓談会)

毎月十六日

御命日法要に引続き

◆聞信会 休会中

令和六年二月より

『浄土真宗のお経の練習』として再開します。

毎月第二土曜日

午後二時より

◆富の原月例法座

毎月第三日曜日

午後二時より

大村市木場一丁目八五番地二
真楽寺 電話五二一五〇一八

<https://www.shingyouji.com/>